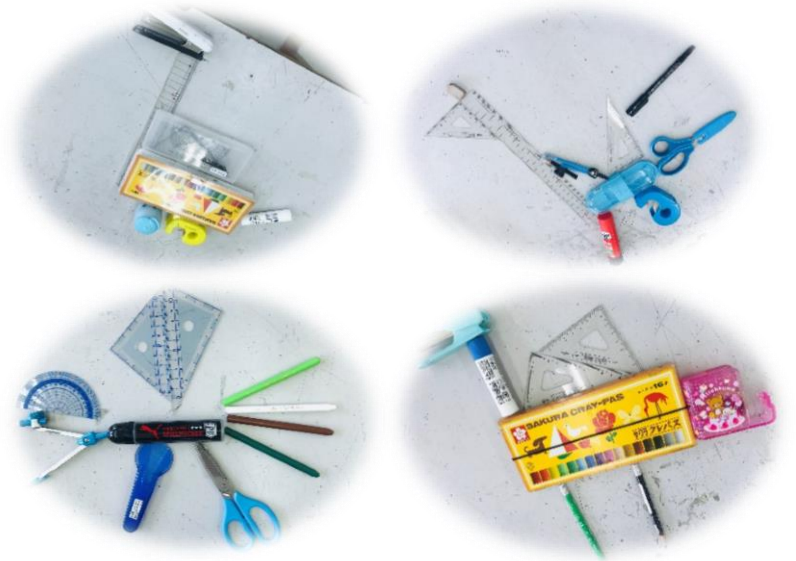


ぼちぼちいか

2020年6月22日
桜井谷小学校
4年図工通信 第3号
発行者：古田 みちる

ザウルス発明家

先週の図工では、「文房具ザウルス」という作品作りをしました。前回の「ぼちぼちいか」で予告をしていたものを読んでくれている子もいてとても嬉しかったです。子どもたちは「ザウルス=恐竜」のイメージをもっている上に、恐竜の名前に詳しいことに驚きました。文房具を恐竜の体のパーツに見立て、オリジナルの〇〇ザウルスをイメージして配置したら、それを画用紙に描いていきます。今回のポイントは、①文房具の特徴を活かして体のパーツを組み合わせていくこと②見えるもの（細かい）部品の重なりや模様などをそのまま描くことの2つでした。アニメや漫画のように描くのではなく、その物の特徴をしっかり観察して（普段は気付かない線や歪みなども沢山見つけられていました！）形や模様、大きさを意識しながら絵で表すことが大切です。しかも今回は、鉛筆での下描きはしないペン描き一発勝負！子どもたちは、作品を描き始めるまでとっても不安そうにしていました。「間違えたらどうしよう」「思った通りに描けなかったらどうしよう」そんな声がちらほらと聞こえてきましたが……（聞こえないふりをして）まずはザウルスを発明していくところから！同じ文房具を使っているけど、並べ方やパーツの見立て方が違って本当におもしろかったです。首が長いものや足が長いもの、鉛筆を駆使してこぶを連ねているものなど…オリジナリティ溢れるザウルスが大集合でした。早速、マイザウルスに名前をつけて楽しんでいる子もいました。



そしていよいよザウルスを紙に描き起こすのですが、なんと見事な集中力！！1つ1つの文房具をよ〜くよ〜く観察しながら、細かい線や部品の重なりをペン1本で表現していきます。なかなか描き始められずに、どこから描き始めようかとじっと悩んでいる子もいます。最初の授業で「困っていたら助けを求めよう」という話をしていたのですが、「どこから描けばいいかわからない」「思っていたより小さくなってしまいました」などと不安を感じていることを言葉で伝えてくれる子どもたちから、作品作りへの意欲を感じました。

集中力と観察力を酷使した子どもたちは、作品が仕上がると少し疲れ気味でした。次の作品作りでも、子どもたちのアイデアと出合えるのが楽しみです。

